

パブリシティの効果的な活用手法の支援を受けて、販路開拓に成功

落合ライト化学株式会社（愛知県）

平成元年7月に設立。遊技機のプラスチック関連部品の設計開発、製造、加工、組立を行う事業者。

1. 相談のきっかけ

遊技機産業の斜陽化に伴い、相談者は、自社のプラスチック加工技術を応用して、異業種に挑戦することを決意。道路工事の夜間の事故防止の為にライト付カラーコーンカバーを考案し、さらに照度センサー付きLEDライト仕様にする事で、省エネ効果も高めた。知財保護に関しては、(公財)あいち産業振興機構の知財総合支援窓口が、特許・意匠・商標出願を支援していたが、販路開拓については、当拠点に相談を実施した。

2. 課題整理・分析

○開発された新商品は、コンセプトが明確であり、ほぼ完成品といっても差し支えない状態であった。知財管理もしっかりなされており、商品の外部への情報発信・発表には現時点で十分に耐えられるものと確認された。さらに、既製品のカラーコーンに被せるだけで、簡単にLED照明付道路標識に変更でき、利便性・汎用性が高いとも判断された。
○そこで、販路開拓に向けては、商品用途を想起してもらいやすい道路関係者に、まずは広く認知してもらうことが有効であると考えられた。

3. 解決策の提案

○道路関係者に迅速に認知してもらうために、HPによるPRや一般的な記者クラブへの投げ込みではなく、全国的な専門紙に的を絞ったパブリシティでPRすることを提案。
○技術系の全国紙として、日刊工業新聞に的を絞り、当拠点のネットワークを活用し、名古屋支社に取材を申し入れた。
○その際、取材の申し込みポイントとして、新商品が夜間の交通事故防止に役立つ「社会性」を強調してより興味関心を引いてもらえるように助言し、そのエビデンスとなる資料の作成なども提案した。

4. 成果

○セットした取材が狙い通り成功し、日刊工業新聞の「建設・エネルギー・生活」面に大きく取り上げられた。当拠点が期待した通り、交通事故防止に有効であるとの社会性のある記事として採り上げられた。
○掲載記事は、新商品の写真とともに、「LED付きコーンカバー」や「センサーで自動点灯」の機能面が大きく強調されたため、関係者の目を引く結果となった。
↓
○その結果、ハイウェイのメンテナンスを行う会社や、伊勢志摩サミットを控えている各県警などからも商品に関する問い合わせをもらうまでになった。
↓
○さらに、LED付きコーンカバーの試作品が、機能性評価のために引き合い先に提供され、最終的にはハイウェイのメンテナンス企業との売買契約が成立した。

日刊工業新聞
2015年(平成27年)10月29日・木曜日
愛知ライト化学
知徳海軍 落合義裕
社長 052-601
・3655)は、照度
センサー付のLED付
コーンカバーのLED
付LEDライトが、照
度センサーで自動点
灯するLEDライトが
18種のLEDライトが
掲載する。

LED付きコーンカバー
センサーで自動点灯

落合ライト化学

同社は、ハイウェイのメンテナンス企業から、LED付きコーンカバーの試作品が、機能性評価のために引き合い先に提供され、最終的にはハイウェイのメンテナンス企業との売買契約が成立した。

<掲載記事>